

議事要旨の作成

第9回 相模川 川づくりのための土砂環境整備検討会（H24.3.22）議事要旨

質問・意見	事務局・委員回答
1. 開会	—
2. 主催者挨拶	—
3. 組織改編等に伴う規約改定	—
(01) 神奈川県組織改編に伴い、規約第7条（事務局）の名称を変更する。 （附則）として平成24年3月22日を追記する。【事務局】	— （合意が得られた）
4. 議事（1）相模川水系の土砂管理等について	—
(02) 60年間の土砂動態の総括図の数値の根拠が、どの粒径の収支を見ているのか不明である。【学識委員】	○横断工作物による捕捉と生産土砂量の取り扱う粒径は異なっている。調査の精度は粗いが、砂利採取のインパクトを示すために本図を作成した。今後は内容の精査と精度向上を図る。【事務局】
(03) 相模ダム堆砂量の貯水池内堆砂量がマイナスになっている理由は何か？測定誤差がある場合があるが、近年の10年間程度はマイナスが多く測量誤差とは言えないのではないか。【学識委員】	○単年度ごとの堆積と掘削、浚渫している量をそのまま書いているため、単年で示すと逆転することもある。但し、内容の詳細については精査する。【事務局】
(04) 相模ダムで毎年15万m ³ の浚渫を行っているところがあるが、この土砂は現在、置き砂に5,000m ³ /年使用するとして、残りほどの割合で何に使用されているのか。次回、ダム浚渫土の当面の処理計画を資料として提示して頂きたい。【市民委員】	○現在は、浚渫した土砂の内、養浜で3万m ³ 、残りは概ね造成事業の盛土材として使用している。【事務局】 ○大学のグラウンド造成事業や土地改良区事業、農地の造成事業等に、多くの量の土砂を搬出する予定である。【関係機関委員】
(05) 土砂動態については、懇談会の中で時間をかけて議論し、提言書の中で時間を3つに分けて示していた。それらの図と今回の試算結果の関係は何か？認識を共有する必要がある。【学識委員】	○提言書の内容は、横断工作物の設置段階ごとに時点を区切って整理したものである。懇談会からこれまでの基礎になっているものであり、否定するものではない。今回提示した資料は、砂利採取のインパクトをいかに示すかを考えて提示したものである。【事務局】

質問・意見	事務局・委員回答
<p>(06) 砂利採取は、川の中で平衡状態にあった土砂というストックを取り除いたことになる。これらの土砂について今後、川に返していくつもりか、または、既に取り除いた後の現状を前提として河川整備を進めているので返す必要ないと考えているのか。今回の分析結果を踏まえて、今後の整理をどのように考えているのか教えて頂きたい。【学識委員】</p>	<p>○砂利採取により相模川水系から土砂の量が取り除かれた現状を前提として、今後の土砂環境について議論を進めていく必要があると考えている。【事務局】【学識委員】</p>
<p>4. 議事 (2) 置き砂試験施工について</p>	<p>—</p>
<p>(07) 置き砂は、河川環境の改善ではなく、生物などに影響がないということが結論のようである。しかし、「V字回復」等の記載があると、環境が良くなったかのような誤解を与えるので、「環境への悪影響がない」ことを強調した表現にして欲しい。【市民委員】</p>	<p>○現時点では、置き砂により負の影響がないことは、ある程度分かったと考えている。表現については誤解のないように表現を工夫する。【事務局】</p> <p>○良い面や悪い面の両面から記載した方が良い。【学識委員】</p>
<p>(08) 平成 19 年洪水で河道が大きく変化している。この出水による土砂移動量はどの程度か教えて頂きたい。どの程度の土砂移動が生じる中で、置き砂の 5,000m³/年という議論をしているのか認識しておく必要がある。【学識委員】</p>	<p>○実際の河道変化については、本区間ではある程度経年的に横断測量を行っているので、横断測量成果を用いて比較できると考える。【事務局】</p> <p>○そのデータは重要であるので、検討して頂きたい。【学識委員】</p>
<p>(09) 全般的にインパクトとレスポンスが複雑に絡んだ説明となっており難しい。論点を明確にした整理の方法をした方が、議論しやすく前に進めるものとする。【関係機関員】</p>	<p>—</p>
<p>4. 議事 (3) 今後の土砂環境改善に向けたロードマップ (案) について</p>	<p>—</p>
<p>(10) 調査計画 (案) では、費用をかけて正確に調査をして、施策に役に立つデータが得られるのか。【市民委員】</p>	<p>○数値の見方は技術的・科学的な見識が問われるが、土砂の移動量を評価することは難しく課題も多い。しかし、人為インパクトに対する差異が数値で算出されるため、施策の効果はある程度評価することは可能であり、意味はあると考える。但し、河床変動計算は、再現計算等により計算モデルの精度を確保する工夫が必要である。【学識委員】</p>

質問・意見	事務局・委員回答
<p>(11) 今後のロードマップに、特に高水敷掘削が新たに加わっている。置き砂よりも河道形状が変わる大きなインパクトであると思う。このモデルで何が予測・評価できるのかを教えてください。【学識委員】</p>	<p>○検討の精度が重要であるため、学識者の指導を受けながら議論を重ねて進めていきたいと考えている。事業を行う主体は行政であるため、事業の効果の数値化や精度の確保を行い、広く県民の方にも示せるような整理が必要と考える。【事務局】</p>
<p>(12) 置き砂も大事であるが、高水敷の樹林化も特に問題であり、高水敷掘削は土砂環境改善に効果があると考え。【関係機関委員】</p> <p>高水敷掘削による礫河原の復活に期待している部分が多い。礫部頭首工の下流のあたりではカワラサイコやカワラヨモギの最後に近い群落がある。また、中津川についても改善を視野に入れて頂きたい。【市民委員】</p>	<p>○高水敷掘削（神奈川県では河床整理）の事業を行っており、酒匂川でもかなり進めている。可能な箇所については予算を確保して実施していきたいと考えている。但し、相模川は堤外地の中に民地が非常に多いという特有の問題があるため、事業を進める上で課題があることや時間を要することは理解して頂きたい。【事務局】</p>
<p>5. その他</p>	
<p>(13) 置き砂の試験施行を2回実施し、5000m³程度の土砂を投入したが、置き砂の効果が見えない。悪くも良くない状況で、今後、3年間の試験施工を継続するのであれば、置き砂の量を増やす検討を行った方がよい。海岸では3万m³ぐらい土砂を入れているので、もう少し置き砂の量を増やして、PDCAサイクル型で効果や影響を見た方がよい。【学識委員】</p>	<p>○置き砂の粒径の点等の調整がうまくできれば、検討を行うことができると考える。【学識委員】</p>